



街路樹



研修調査室の次年度研修に向けて

支援室 来年度に向けて

令和2年度はコロナ禍の影響により、研修の中止や変更が多くありました。しかし、改めて研修の必要性を確認したり、実施内容や方法を見直したりする機会となりました。次年度は今年度の成果と課題を踏まえ、次のとおり、研修の充実を図って参ります。

なお、次年度の「研修の手引き」を2月中旬にKドライブへ掲載します。また「教職員研修計画」を3月中旬に各学校へ送付しますので、ご確認をお願いします。

①初任者研修・新規採用者研修の充実

校内研修及び校外研修の総日数・研修時間数に変更はありませんが、校外研修に自然体験研修(1日)を追加します。それに伴い、初任者研修の研究発表集会等研修及び新規採用養護教諭研修の社会体験研修をそれぞれ1日削減します。その他、内容や方法に若干の変更がありますので、手引きでの確認をお願いします。

②情報教育研修の充実

GIGAスクール構想に備え、ICT教育に関する研修を充実させます。具体的には職能研修の情報教育主任研修を悉皆研修とし、ICT機器の活用の特化した研修とします。また、プログラミング教育について、職能研修では基礎編、専門研修では応用編として実施します。専門研修のICT活用講座(小・中)も、ICT機器の活用と実践に特化した研修として実施します。

③専門研修の充実

教科研修の授業力向上講座(I・II・III)をはじめ、授業改善講座などの教育課題研修において、大学教授等の外部講師を招き、より専門的な研修として実施します。

④教育研究発表会の充実

次年度は調査研究委員会の実践発表を中心に開催します。また、講演会では元開成中学・高等学校長の柳沢幸雄氏のご講演を予定していますので、多くのご参加をお待ちしております。

以上、次年度の研修の一端をご紹介します。大きく変化し続ける社会を生き抜く子どもたちのために、それに対応した教育の充実が求められています。そのような教育を実現していくために研修は欠かせません。“最大の教育環境は教師自身、を心に留め、指導力向上に努めていきたいと思ひます。

教育支援室では、今年度も、

- 教育相談の充実を図る相談・支援の一本化
- 不登校・引きこもり児童生徒への対応
- 切れ目のない一貫した支援の実現

について、次のとおり取り組んできました。

教育相談事業においては、心理検査の実施がこれまで以上に児童生徒支援に活かされることを目指し、「心理検査実施検討のためのチェックリスト」の周知と実施に努めました。心理検査は「結果を知る」ことより、「結果を活かす」ことが重要と考えております。今後も、ご理解とご協力をお願いします。

不登校対策事業においては、いわき海浜自然の家やアリオスの協力を得ながら、チャレンジホームの合同行事の充実を図ってきました。また、不登校対策会議においては、「不登校対策だより」でもご紹介したとおり、平五小、平一中、平三中で行われているSSR(スペシャル・サポート・ルーム)が話題となりました。担当教員が配置されていない他の小中学校においても様々な取組みがなされていることと思ひます。今後は、それらの取組みを共有し合い、不登校児童生徒へのよりよい支援に活かしていければと考えています。

特別支援教育に関する事業においては、特別支援学級等を担当する教員、特に、初めて担当する教員に対するサポート体制の充実に取り組んできました。特別支援学級の数が増加傾向にある現状においては、必然的に、初めて担当する教員の数も増えてきます。そのような状況において、教員の専門性の向上は急務と考えています。

次年度においても、上記内容の充実に加え、学校等からの要望にも対応していきたいと考えています。まずは電話(22-3716)にてご相談ください。



「OJTのすすめ」

OJTとは、一般的に、「職場内において職務を通じて行われ、職場の上司・先輩等が職場内で仕事をしながら、報告・命令等の機会をとらえて、仕事に必要な知識・技能・態度等を指導すること」といわれています。また、人材開発の業界では、成人の仕事に必要な能力の発達について、「七二一」といわれるそうです。七は経験で、二は上位者からのフィードバック、残りの一が研修です。経験等の割合が大きく、職能成長のほとんどは、現場にあるといえます。

学校においては、教員同士が協働の取組みを通して、互いに支え合い、成長し、高め合っていくこともOJTであり、日常の教育活動の様々な機会・場面を捉えて効果的に行うことが大切になります。

いわき市総合教育センターでは、校内におけるOJT

の活性化を図るため、経験者研修Ⅱ・Ⅲやミドルリーダー養成研修に「研究推進研修」を位置付けています。校外における研修・研究で学んだことを他の教員に伝えること(伝達講習)等により、全教員及び学校全体の教育力向上を目指します。また、伝達する教員自身も、他の教員にわかりやすく内容を伝えることを通して、自らの力量の更なる向上を図ることができます。

ポイントとして、単に伝達するだけでなく、演習や協議なども取り入れ、教員相互で高め合う場を設定するなど、伝達講習の持ち方を工夫することも挙げられます。また、配付資料は、データベースとして蓄積し、共有化を図ることも考えられます。学校におけるOJTが、意識的・継続的に取り組まれ、充実したものになれるよう願っております。